

Volunteer Seminar Journal Vol.7

学生ボランティア支援 今後のスケジュール

■ 震災ボランティア スタートアップフェア

日程：4月8日(火)、10日(木)、16日(水)、17日(木)、23日(水)、25日(金)
時間：各日程17:00～19:00。ただし16日(水)のみ13:00～17:00
会場：川内北キャンパスC102教室(予定、会場変更の可能性あり)

本誌10ページ以降で紹介している学内・学外のボランティア団体が一堂に集まる「スタートアップフェア」。震災の風化が危惧される4年目の今だからこそ、ボランティアの力が必要とされています。自分に合った震災ボランティアを見つけてみませんか？ 予約不要、途中入場・退室自由です。なお23日・25日は「復興大学災害ボランティアステーション」と共催です。

■ 新入生歓迎ボランティアセミナー

「陸前高田市の避難所・和野会館からの報告とまちづくりへの挑戦」

講師：千葉浩一(上和野町内会事務局長)氏
日時：2014年4月15日(火)18:00～20:00
会場：川内北キャンパスC102教室(予定、会場変更の可能性あり)

陸前高田市高田町で避難所運営をされた千葉様から、その当時の様子、また現在、東北大学生等と一緒に取り組んでいるまちづくりへの挑戦などについてお話いただけます。入場無料、予約不要です。新入生以外の方もぜひお越し下さい。

■ 学生ボランティア支援スタッフ説明会

日時：2014年4月21日(月)、5月8日(木)
両日とも18:00～20:00
会場：川内北キャンパスC102教室(予定、会場変更の可能性あり)

東北大学の主催するボランティアツアーや各種ボランティア支援のイベント等の企画運営にたずさわる「学生ボランティア支援スタッフ」になってみませんか？

「ボランティアを支援するボランティア」である学生スタッフの仕事などを紹介します。

※上記イベントは、会場など変更の可能性があります。下記公式サイトでご確認下さい。

東北大学ボランティア関連公式サイト：
<https://sites.google.com/site/voltohokuuniv/>

ツアーへのお申し込み

QRコードから申込用のフォーム
(<http://goo.gl/NBDSxx>)が読み込めます。

読み込めない方は氏名、参加希望ツアー名を明記し、tour.info.tohoku@gmail.comまでメールをお送り下さい。いずれのツアーも定員に達し次第、切に関わらず、募集を終了します。



■ 4月～5月のボランティアツアー等

下記のツアー参加者を募集します。スタートアップフェアでもツアー内容は紹介します。先着順にべ切りますので、お申し込みはお早目をお願いいたします。

仙台市若林区被災地スタディツアー

4/13(日)

- 13日13:00東北大学川内南キャンパス集合、同日18:00同所にて解散
- 仙台市内で甚大な被害をこうむった仙台市若林区の被災状況を視察し、地元の方から被災状況や復興の課題についてお話をお聞きします。
- 定員：20名、参加費無料。募集べ切：4月11日(金)

陸前高田ボランティアツアー

4/18(金)～20(日)および5/4(日)～6(火祝)

- 4月は18日18:30川内南キャンパス出発、20日22:00同所にて解散。5月は4日10:00に川内南キャンパス集合、6日22:00同所にて解散。
- 陸前高田市の仮設住宅等で足湯や手芸を通して、被災した方々を支援します。岩手大学・神戸大学等と一緒に活動します。
- 参加費2,000円(予定)※食費・入浴代は別途必要。宿泊に寝袋が必要
- 定員：どちらも20名、募集べ切：【4月】4月16日(水)、【5月】4月25日(金)

福島ボランティアツアー

4/26(土)～27(日)

- 26日8:00川内南キャンパス出発、27日18:00同所にて解散
- 福島県内の仮設住宅でボランティア活動を行います。また福島県の復興状況や、放射線に関する知識を学びます。
- 参加費2,000円(予定)※食費・入浴代は別途必要。
- 定員：20名、募集べ切：4月20日(日)

亘理・山元町を見る・聴く・体験するスタディツアー

4/29(火祝)

- 29日8:45川内南キャンパス出発、17:30同所にて解散
- 宮城県南部の山元町で被災した農園を訪れ、いちご狩りなど体験。その後、被災現場の視察や、亘理町の方から被災当時のお話などをお聞きします。学生団体HARUと共催。
- 参加費3,000円(予定、食事代など含む)
- 定員：40名、募集べ切：4月25日(金)

若林区農業復興支援ツアー

5/3(土)

- 3日8:00川内南キャンパス集合、18:00同所にて解散
- 仙台市若林区におけるReRootsの活動へ参加し、農業支援・地域復興活動の現在について学びます。
- 参加費無料
- 定員：20名、募集べ切：4月30日(水)

P2 ●東日本大震災とボランティア活動	P3 ●東北大学による学生ボランティア支援	P4～ ●被災3県(岩手県・宮城県・福島県)の現状と学生ボランティアの取り組み
P10～ ●学生ボランティア団体の紹介	P12～ ●学外ボランティア団体の紹介	P16 ●今後のスケジュール



東日本大震災とボランティア活動

社会を学ぶきっかけとしての「ボランティア」

東北大学の世界的な学術研究、教育の内容も、社会との接点を持たなければ、本当の意味で役に立つ知識とは言えません。社会との接点を持ち、大学で身につけた専門的な知識がどのように社会の中で生かされるかを知ることは、新しいことを学ぶ動機づけになると同時に、学ぶ内容や方向性を考えるきっかけともなります。そのための、大きなきっかけとなるのが学生ボランティア活動です。



震災が明らかにした課題に創造的に取り組む



2011年3月11日に発生した東日本大震災は、「少子高齢化」「過疎」「失業」「農林業・漁業・観光・商業等の地域の基幹産業の衰退」等の構造的課題や、原発事故を巡る課題、復興制度の課題、住民と行政が協力して復興を進めることの難しさなど、被災地のみならず日本社会全体で取り組むべき複雑な課題を浮き彫りにしました。

この難しい状況をどのように克服するか。復興の現場では多くの人が集って考え、議論しあい、よりよい社会を再建すべく、様々な取り組みがなされています。参加し、知恵を出しあう人々は世界的なスケールになっています。

実際の被災地支援の活動は「かわいそうな人を助ける」といったイメージとは異なるものです。様々な困難を克服しようとする被災者や住民、行政マンや支援者から、困難に立ち向かう知恵と勇気を学びながら、自分たちのできることを模索していく創造的な取り組みです。

4年目の被災地

東日本大震災から4年目となりますが、岩手県・宮城県の被災地ではまだ多くの人が仮設住宅等での生活を余儀なくされています。復興住宅への入居が本格化するのが今年度から再来年度以降にかけてで、高台やかさ上げ地での自宅再建はもっと先になる見通しです。さらに福島県については、復興にはより長い年月がかかると見られています。岩手県・宮城県・福島県の3県の現状については4ページ以降にまとめています。



一方、震災当初は全国から来ていたボランティアは減り続け、「震災の風化」が叫ばれます。

生活や産業の再建はまだまだこれからで、様々な分野でボランティアの力が必要とされています。ぜひ皆さんも、被災地支援の活動に学生ボランティアとして関わってみてください。

東北大学による学生ボランティア支援

東北大学では以下の取り組みを通して、東日本大震災に関連する学生ボランティア活動を積極的に支援しています。

スタートアップフェア

多くの東北大学生が、学内や学外のボランティア団体に所属して様々な分野で震災復興のボランティア活動に取り組んでいます。自分にあった団体や活動を探せるように「震災ボランティア・スタートアップフェア」という学内・学外のボランティア団体による合同説明会を学内で開催しています。本誌10ページ以降で紹介している様々な団体の説明を、直接に聞くことができます。4月は6日間開催します(日程・会場については裏面をご参照下さい)。また7月・10月・1月にも開催の予定です。



被災地でのツアーの実施

東北大学主催では、被災地の現状と課題を学ぶ「スタディツアー」や、被災地で実際のボランティア活動を行う「ボランティアツアー」を実施しています。平成26年度には24回のツアー実施を予定しています(【表】は平成25年度の実施実績)。これらのツアーに定期的に参加して、被災地に貢献する学生も多数います。裏面にゴールデンウィーク前後に開催するツアーを紹介していますので、参加してみてください。

【表】平成25年度に実施したツアー

実施日	ツアー名	参加学生数
H25.4.27~29	陸前高田ボランティアツアー	13
H25.4.28	山元町いちご農園ボランティアツアー	38
H25.5.3	石巻スタディツアー	27
H25.5.4	宮城県沿岸ボランティアツアー	10
H25.5.5	若林区農業復興支援ツアー	29
H25.6.8	福島スタディツアー	23
H25.6.14~16	陸前高田ボランティアツアー	11
H25.6.22	移動保育プロジェクトボランティア体験会	20
H25.8.7~11	陸前高田ボランティアツアー	17
H25.8.8	七ヶ浜ツアー	14
H25.8.18	東松島ボランティアツアー	11
H25.8.19~21	仙台&宮城県沿岸部ツアー	8

実施日	ツアー名	参加学生数
H25.9.4~7	陸前高田ボランティアツアー	6
H25.9.12~14	福島スタディツアー	12
H25.9.17	女川まちづくりスタディツアー	16
H25.9.24~25	雄勝スタディツアー	16
H25.11.22~24	陸前高田ボランティアツアー	16
H25.12.14~15	留学生と共に行く福島スタディツアー	31
H25.12.20~23	陸前高田ボランティアツアー	8
H26.1.11~13	陸前高田ボランティアツアー	8
H26.2.8~11	陸前高田ボランティアツアー	26
H26.2.15~16	南三陸ボランティアツアー	11
H26.2.21~22	福島ボランティアツアー	14
	合計	385

正課授業や「グローバルリーダー育成プログラム」との連携

基礎ゼミ「地域復興とボランティア活動」(平成26年度前期)および全学教育科目「震災復興とボランティア」(同後期)では、実際のボランティア活動への参加が授業の一環に組み込まれています。

また、被災地でのボランティア活動は、「東北大学グローバルリーダー育成プログラム(TGL)」のポイントとしても認定されます。詳しくはTGLのサイト(<http://tgi.tohoku.ac.jp/>)をご覧ください。



情報提供・相談活動

本学学生へのボランティア活動についての情報提供のため本誌・ボランティアセミナージャーナルを定期的に行っています。またWebサイトやメール配信サービスでも情報提供を行っています。また、ボランティア活動に関する相談について、専門のスタッフが対応いたします。何でも気軽に相談して下さい。窓口などは、本誌裏面をご覧ください。

各種イベントの開催

被災地でのボランティア活動に関する講演会や講習会、報告会なども開催します。また他大学生との交流会なども実施しています。

学生スタッフ

上記のツアーや、各種イベント等の大学主催プログラムは、「学生ボランティアを支援するボランティア」である学生スタッフが参加して企画・運営されています。各団体や被災地の状況を広く学びながら、被災地に必要とされかつ学生のニーズを踏まえた企画を皆さん自身で立案・実施してみませんか? 関心のある方は、裏面の窓口・連絡先にアクセスしてみてください。

岩手県

東日本大震災による津波被害により、岩手県の沿岸地域では甚大な人的・物的被害が発生しました。岩手県最南部に位置する陸前高田市は最も大きな被害を受けた自治体のひとつです。

東北大学では、2012年より神戸大学と共同で(その後、岩手大学も合流)、陸前高田市で学生ボランティア活動を展開しています。ここでは主に、陸前高田市の状況と、そこでの東北大学生ボランティアの活動を取り上げます。

陸前高田市の被災状況

陸前高田市の市役所や商業施設が集積していた平野が13mから17m以上の津波に襲われ、1,735名の方が亡くなり、3千戸以上の家屋が被災しました(2012年10月陸前高田市発表)。

避難場所に指定されていた市民体育館(写真左)や市民会館が全壊。避難していた市民の多くが亡くなりました。また市役所も浸水したことにより、一時的に行政機能が停止状態となりました。

また広田湾沿いに7万本の松林が2km続く「高田松原」がありましたが、そのほとんどが津波でなぎ倒されました。その中で、一本だけ倒れずに残ったのが「奇跡の一本松」(写真右)です。



復興の現状

陸前高田市には2,168戸の仮設住宅が建設され、2014年3月現在も津波で家を失った方の多くがそこで生活しています。災害復興公営住宅は2014年秋から2016年にかけて1,000戸が建設されます。また、高台やかさ上げ地での住宅再建にはまだ時間がかかります。後、数年間は仮設住宅での生活が続く見込みです。

被災した方々の声

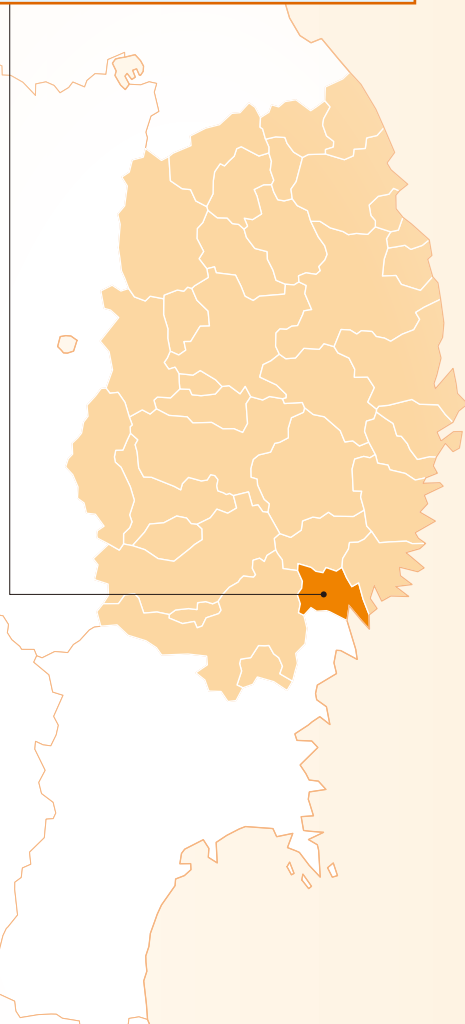
仮設住宅での足湯や手芸のボランティア活動を通して、被災した方々から被災経験や現状の課題についてお話を聞きます。以下、その一部を紹介します。

避難所が葬儀場の後ろで、自分ももう死のうと思っていた。その時、おばあちゃんに「助かった命を捨てちゃだめだよ」と止められて、ポロポロ涙が出てきた
(30代女性、2014年2月)

仮設住宅でも、いろいろなトラブルを言われてしまい、うつになったり自殺する人がいる。行政の方でもう少しなんとかならないかな
(60代女性、2014年2月)

死者数(震災関連死含む)	5,106名
行方不明者数	1,142名
家屋倒壊数(全壊・半壊)	25,705戸

岩手県総務部総合防災室 平成26年1月31日発表



東北大学生の取り組み

東北大学では、2012年9月から2014年2月まで合計12回の「陸前高田ボランティアツアー」を実施し、以下のような活動を行ってきました。

仮設住宅での足湯・手芸

仮設住宅で足湯・手芸を通して被災者の方々と交流しています。お茶を飲みながら雑談をして、震災のことや今の生活のことなどを幅広くお聞きして、被災された方々の気持ちに寄り添うことを目的に活動しています。



仮設住宅で手芸をする住民と学生

上和野地区での活動

宿泊している上和野地区で、8月には伝統行事「動く七夕」で山車を地元の方々とひっぱりました。また地域の子ども会で学習支援やレクリエーションも行います。1月には悪魔祓いの「とらまい」にも参加しました。



動く七夕。電飾された山車をひっばる

P@CT の活動への参加

地元のNPO 法人「P@CT」が運営する復興サポートステーションでの漁業支援や遺品搜索の活動に参加します。また「みちくさルーム」という、地域の子ども支援の活動にも参加させていただいています。



P@CTの遺品搜索活動への参加

聞き取り活動

上和野地区の避難所運営に関わられた方々からの聞き取り活動を行っています。避難所運営の教訓を、今後、津波被害が想定される他地域に教訓として発信するべく、貴重な証言を聞き書きし、冊子にまとめる予定です。



避難経験者への聞き取り

ツアー企画学生の声

ツアーを運営するにあたって、一番に心がけていることは、参加者の方々に大学にいる時とは違う震災への触れ方をしてもらうことです。それを、被災された方々とのコミュニケーションという形で実現しています。新しい気づきや、問題意識と向き合うこととなります。(奥山拓哉・法学部2年)

ツアー参加者の声

実際に見聞きすることでしか分からないことを感じる事ができ、とても有意義でした。(法学部3年) おばあちゃんたちの楽しい会話から逆に元気をもらえました。また参加したいです。(工学部1年)

東北大学生の陸前高田市での活動は、東北大学地域応援サークル「ぽかぽか」のブログ等でも発信中!
BLOG: <http://ameblo.jp/poca-2/> Twitter: @poca_2

宮城県

豊かな漁港と農地を有する宮城県。

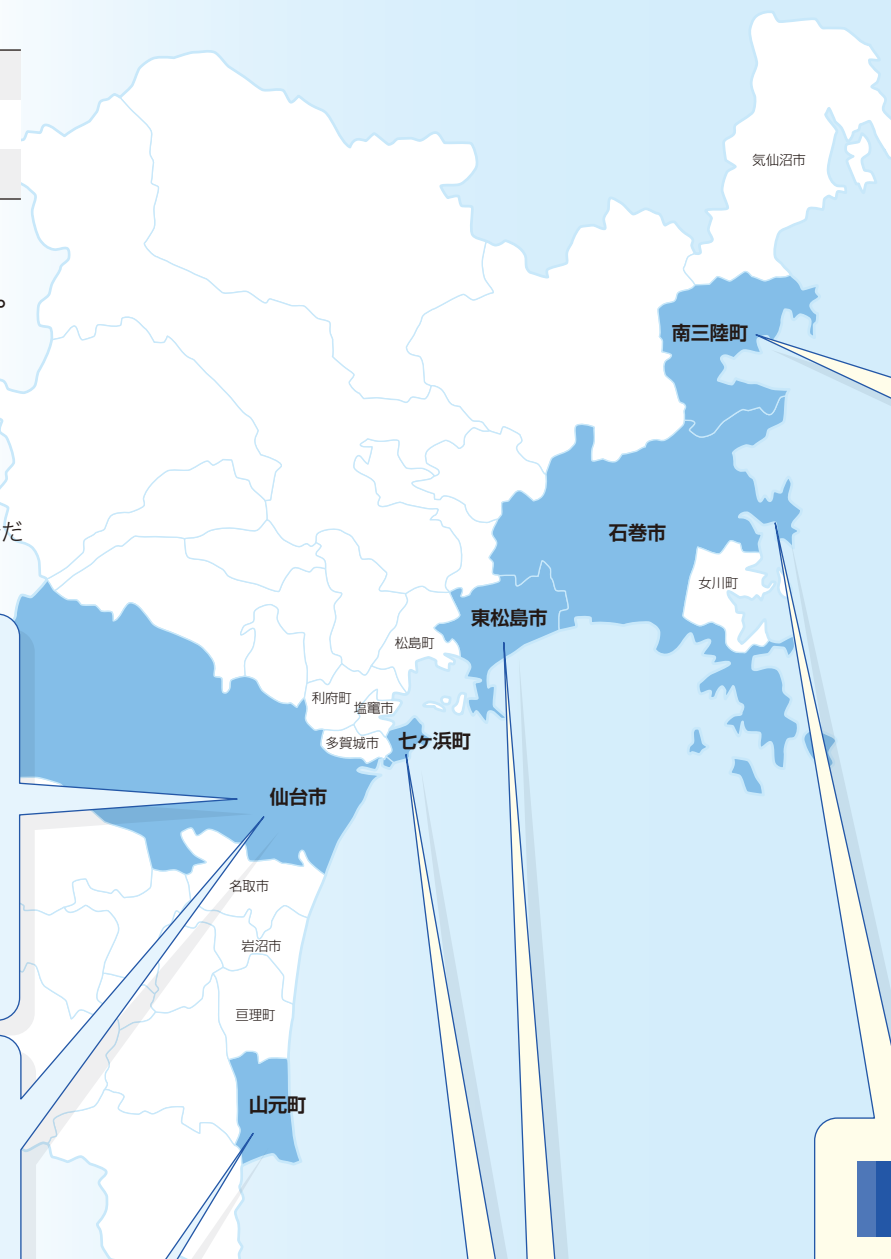
震災時、北部では20メートルを超える津波が押し寄せ、南三陸町、女川町などの市街地は壊滅的な被害に見舞われました。県南の平野部では、国道6号線沿いまで津波が押し寄せ、広大な農地・港湾施設等が被害を受けました。宮城県では現在でも8万人を超える住民が仮設住宅や民間アパートを借り上げたみなし仮設住宅で生活しています。

死者数(震災関連死含む)	10,472名
行方不明者数	1,283名
家屋倒壊数(全壊・半壊)	237,997戸

宮城県震災復興政策課 2014年2月11日発表

復興とボランティア 3年間のあゆみ

震災からの3年間で、大学生によりあるいは社会人により様々なボランティア活動が行われました。役割を終えた活動もあれば、4年目の今だからこそ必要になる活動もあります。このページでは、東北大生による3年間のボランティアのあゆみを振り返ります。



南三陸町

中心部の志津川町は壊滅的な被害を受けました。町の防災庁舎は津波で被害を受け、保存すべきか否か今でも決着がつきません。学内の団体では「All for Tohoku」が小学生向けのフットサル大会を開催しています。2011年から活動を始め、根付く先として南三陸を選択しました。また、「復興応援団」は地元の農業・漁業を応援するツアーを開催。リピーターを多数呼び込み、地域の課題と魅力を伝えます。



南三陸町防災庁舎(2014年2月撮影)

石巻市雄勝町

〈2013年9月～現在〉
スタディツアーから足湯ボランティア活動へ

雄勝硯やホタテで有名な石巻市雄勝町は、東日本大震災で甚大な被害を受けました。震災から三年あまりの時間が経過するなかで、大幅な人口減少をはじめ様々な課題にも直面してきました。



そこで東北大学では昨年9月、地域の方のお話を通して①震災後の地域の歩みと②今の思い、そして③これからの展望を考えるという目的のもと、スタディツアーを開催しました。総勢20名が参加したツアーでは、終了後に思わぬ広がりを見せています。今年1月には、ツアー内容をまとめた報告集を作成し、一般学生に向けた報告会を行いました。さらに、震災後に雄勝外へ住むこととなった方に支援が少ないことから、石巻市河北町(雄勝町の隣)で足湯ボランティア活動を始めました。これからも地域に寄り添いつつ、活動を続けていく予定です。(松原久・文学研究科修士2年)

東松島市

東松島市では農地を含む広い範囲が津波の被害を受けました。高台への移転へ向けてまちづくりが始まっています。学内団体の「みまもり隊」は2011年から農家の支援に着手、現在でも農業支援の活動を続けています。



2013年8月、トマトの収穫を手伝うみまもり隊の活動

仙台市

大津波では仙台市の農地の40パーセントが冠水。行政とボランティアの力により瓦礫撤去と農地再生が行われています。学内団体のReRootsは2011年よりがれきの撤去に着手。現在ではがれき撤去はほぼ収束し、農業と地域を軸に多様な活動に取り組めます。仙台市内の仮設住宅では様々な団体が学習支援を行っています。被災により学校が休校になり、勉強が遅れてしまったことがきっかけでした。その後も環境の変化に直面する子供たちを支えています。



2013年2月、若林区でのReRootsの活動

東北大学附属図書館

〈2011年4月～2012年8月〉
大震災で東北大学附属図書館の蔵書100万冊以上が落下しました。一部の貴重書は、転落防止バーを飛び越えて落下しました。「HARU」を中心にした学生ボランティアの手により、5月の連休までに応急的な作業は完了。新学期までに一部運営を再開することができました。その後、破損した本の修復なども行い、完全に作業が完了したのは2012年8月です。



2011年4月 東北大学附属図書館(写真提供:「HARU」)

山元町

〈2011年4月～現在〉
震災から間もない、まだ大学の再開時期も未定だった時期。「HARU」により1日あたり約40名(延べ約1,000名)のボランティアが山元町に派遣され、炊き出しや民家の泥かき、避難所の手伝いなどを行いました。現在も小規模ではありますが、いちご農家さんの支援と仮設住宅での足湯を行っています。



2011年4月 山元町(写真提供:「HARU」)

Volunteer's Voice 〈2011年4月〉

皆さん、震災直後の食料ってどうしてましたか?僕は数日後に八百屋に2時間並びました。その時、おいしそうな宮城産のいちごが売ってたんです。(……)数日の間、ぼくの一日の楽しみはこのいちごでした。最近HARUは山元町に行ってるんですが山元町は有名ないちごの産地なんです。もしかすると僕が食べたいいちごは山元町から出荷されたいちごだったのかもしれない。しかし沿岸部に集中していたいちご農家は一部を残してほぼ全滅してしまいました。防風林も、家の基礎も流してしまうほどの大きな津波が押し寄せたそうです。(HARU ブログ:実動部 Oさんの投稿より再構成 苺農園の写真は左)

死者数(震災関連死含む)	3,479名
行方不明者数	4名
家屋倒壊数(全壊・半壊)	94,623戸

福島県災害対策本部 平成26年2月4日発表

原発事故の影響

他の被災2県とは異なり、福島県では福島第1原発事故による被害が津波に加えて深刻な影響を与えています。震災による巨大津波は原発の冷却機能を喪失させ、複数の原子炉から大量の放射性物質が拡散しました。3月12日までに第一原発の周囲20km以内の地域に避難指示が出され、多くの人が県内外への避難を余儀なくされました。地震・津波による死者に加え、避難所での生活で健康を損ねたり、持病が悪化して亡くなったりした方(震災関連死)も高齢者を中心に多くいらっしゃいます。事故以来、放射性物質の除去作業が続けられていますが、放射線量の高い地域は居住が制限されており、現在(2014年2月)も県内で約8万8000人、県外で約4万8000人の方が避難生活を続けています(福島県公式サイトより)。また、放射線による癌などの健康被害が懸念されており、特に子供を対象として県民の継続的な健康調査が福島県により行われています。

放射性物質による作物や環境の汚染、さらに風評被害のために地域の産業も大きな被害を受け、農業や漁業を続けることを断念する方も少なくありません。原発事故の影響は人口流出や後継者不足などの従来から地域が抱えていた問題を悪化させ、地域の復興に影を落としています。

支援の取り組み

震災以降、福島県でも多くの方が被災した方の支援に携わっており、復旧活動の手伝いや、仮設住宅での生活のサポート、子供を持つ家庭のための子育て・学習支援などが行われてきました。しかし、福島県で活動するボランティアの数は宮城県や岩手県に比べて少なく、現在も多くの協力を必要としています。

東北大学では、2013年からスタディツアーの企画や、仮設住宅での活動、子育て支援への参加などを行っています。



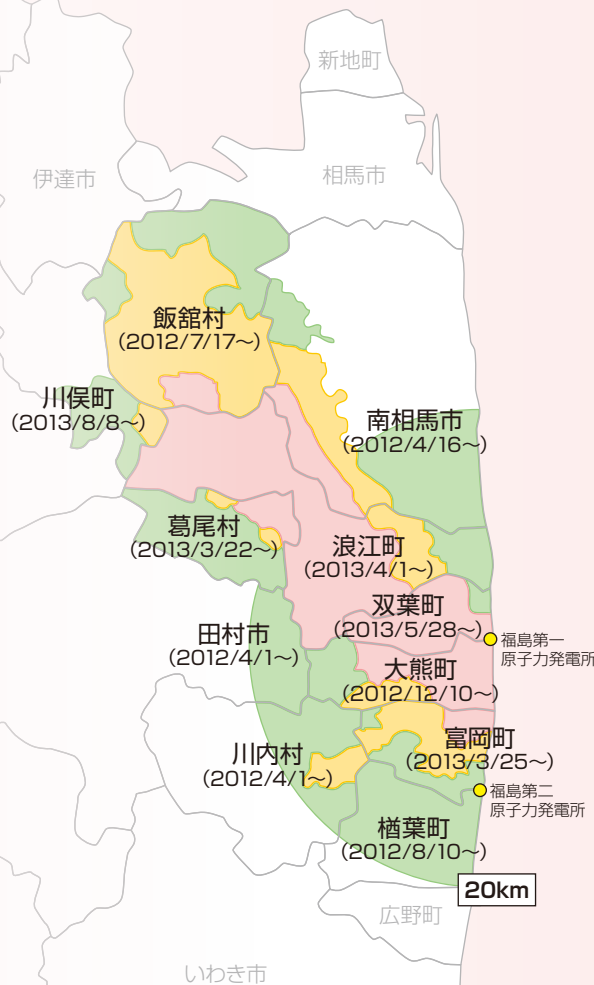
津波の被害により壊れたままの駅舎(JR富岡駅)。放射線量が高いため居住が制限された地域では復旧工事もほとんど進んでいない。(2013年9月撮影)



除染のために削り取った高放射線量の土砂の仮置き場(福島県川内村)。大量の土砂を最終的に何処でどの様に処理するかについてはまだ決まっていない。(2013年9月撮影)

避難指示区域の概念図

平成25年8月8日現在



凡例
 ■ 帰還困難区域
 ■ 居住制限区域
 ■ 避難指示解除準備区域
 ※ カッコ内の日付は区域見直しの施行日

原発周囲の居住制限地域を示す地図。赤色とオレンジ色の区域は放射線量が高く、居住が制限されている。緑色の区域では住民の帰還に備え復旧作業が進められている。

(経済産業省公式サイトより転載)

東北大学生の取り組み

仮設住宅での活動

震災から3年近くが経過した現在も、多くの方が仮設住宅で生活しています。これまで、郡山市や福島市の仮設住宅で福島大学などと共同で足湯・傾聴ボランティアを行ってきました。



参加者の声

足湯を行うのは初めてでしたが、仮設住宅に実際に住んでいる方と交流でき、貴重な体験でした。(経済学部4年)

子育て支援への参加

震災以降、福島県で子育て支援を行っているNPO「ポッケア」さんの活動に参加してきました。ポッケアさんは、放射線量が高く、外遊びができない地域の子供たちに、自然の豊かな環境で遊ぶ機会を提供する「移動保育」を行っています。現在は、子供たちに遊びを通じて自然に親しみ、社会性を育ててもらおうというより広い目的のため活動されています。



スタディツアー

東北大学では、現地でのボランティア活動に加え、震災や原発事故がどのような影響を与えたかを学ぶためのスタディツアーを企画しています。ツアーを通して被災した地域を見学したり、住民の方や行政、支援活動に携わる方々のお話を伺います。

昨年12月に行われた前回のツアーでは、相馬市や飯館村で漁業組合や農家の方にお話をいただきました。また、国際交流支援室との共催のもとで、一般学生に加え多くの留学生が参加し、国際交流の機会ともなりました。



相馬市にて漁協の方より被害の状況や現在の課題についてお話を伺う。

ツアー企画スタッフの声

今回のツアーでは、現地の方のお話や仮設住宅での活動はもちろん、参加者からの学びも多くあったように思えます。スタッフとして、参加者がどのような考えを持っているか興味がありましたが、様々なバックグラウンドを持った人が集まり、原発事故について話し合うことで、私も自分の考えを見直す良い機会になりました。福島の問題に答えを見出すことはなかなか難しいかもしれませんが、決して目を背けず向かい合っていくことが重要だと感じさせてくれるツアーになりました。(石井雄太郎・法学部2年)

ツアー参加者の声

これまでもニュースで福島の様子を見ることはあったが、直接福島の方々に会ったことでより身近に感じるようになり、今後仕事に就いてからも何かのときに福島の人たちのことを考えることがあると思う。(法学部3年)

今まで被災地に行ったことがなく、今回のツアーは現状を知るいい機会になりました。漁業や農業といった、その地域の根幹を担う産業についての現状と今後の見通しについて、その分野に深く関わる方々のお話が聞けたのは本当に良い経験になりました。(法学部2年)

学生

ボランティア団体の紹介

9団体

※掲載は五十音順です

東北大学に登録している、東日本大震災に関連した活動を行っている学生ボランティア団体を紹介します。気になる団体があれば個別に連絡を取るか、4月のスタートアップフェア等で詳しく話を聞いてみましょう！

1 As One

代表: 上田 格(工学部3年)

私たちは

- 東日本大震災の復興支援
 - 海外支援
 - メンバーの居場所づくり
- をコンセプトに活動している団体です。



今現在As Oneでは、"Habitat for humanity Japan"という国際NGOと契約を結び、実際に体を動かして住居建築ボランティアをしています。さらに他の大学とも多くの繋がりがあり、全国の学生と一緒に震災復興の支援をしています。ボランティアする人は多いほど復興の力になります！ぜひ私たちと一緒にボランティアをしましょう！



E-mail: tohoku.asone2013@gmail.com

2 M Leaders

代表: 小林 紘樹(工学部3年)
吉田 香波(東北学院大学経済学部4年)

M Leadersは、松島への熱い思いを抱える学生から構成される地域活性化団体です。松島町と学生をつなぎ、地域活性化に取り組むことを目指しています。看板企画として、全国の学生に松島の地域活性化プランを考えてもらう「松島地域活性化プランコンテスト」を企画・運営しています。メンバーは、東北大学、東北学院大学、宮城大学の男女学生計8名です。活動を推進するプラコン企画部門、どんぐりハウスプロジェクト部門、広報部門、経理・人事部門の4つの組織体制で活動しています。



E-mail: mleaders10@gmail.com URL: <http://mleaders.wix.com/index>
プランコンテストホームページ URL: <http://tyouzcs.wix.com/matsushim> Facebook: M Leaders Twitter: @m_leaders10 TEL: 080-1817-5878

3 All for Tohoku

代表: 梶原 惟央璃(農学研究科修士1年)

私たちA4Tは、これまで被災地の小学生を対象にフットサル大会などのイベントを開催してきました。前回のイベントでは、これまでのスポーツを中心とした内容に加えて、東北の郷土料理である芋煮を皆で調理しました。今後も被災地の方の希望に添えるような活動を続けてゆきたいです。



そして、団体新メンバーを募集しております。この春入学された方、ボランティア活動に興味を持っている方は、ぜひHPをご覧ください。



E-mail: all4tohoku@gmail.com URL: <http://a4t.lolipop.jp/>

4 学習支援ボランティア
キッズドア@東北大

代表: 進藤 克哉(文学部3年)

私たちは中3生に向けて無料の高校受験対策講座[タダゼミ]等の運営をしています。受験対策に加え、英会話、農業体験、ICT、プログラミング等の講座を通して子どもたちの未来をサポートする新しい教育支援をしています！
まずは、4月のスタートアップフェアへぜひお越しください！



E-mail: yssy444@gmail.com (連絡担当: 佐々木) URL: <http://kidsdoor-fukko.net/>

5 TEDxTohoku

共同代表: 亀井 潤(工学研究科修士2年)
渡辺 絵里(文学部4年)

皆さんTEDをご存知ですか？TEDは、テクノロジー・ビジネス・デザイン等の幅広い分野の登壇者が自分のアイデアをプレゼンする米国発のイベントで、最近ではNHK「スーパープレゼンテーション」でもお馴染みです。



TEDxTohokuはその地域版として、震災後に東北大学の学生を中心に組織されました。毎年12名の登壇者を招いた講演会を企画し、「東北を変えるアイデア」を国内外からの参加者・WEB視聴者に発信しています。企画に興味のある方はぜひご連絡ください！



撮影: 田太一彦氏

URL: <http://tedxtohoku.com/>
Facebook: TEDxTohoku で検索 Twitter: @TEDxTohoku YouTube: TEDxTalk チャンネル → TEDxTohoku で検索

6 東北大学地域復興プロジェクト
"HARU"

代表: 今野 美実(農学部3年)

私たちHARUは、震災直後から地域に寄り添った支援活動をしています。現在は3つのプロジェクトに分かれ、教育支援プロジェクトでは仮設住宅に自習室を開き、いちごプロジェクトでは農家さんのお手伝いを、足湯プロジェクトでは仮設住宅で足湯カフェ活動をしています。昨年の学祭では復興商品の販売もしました。



メンバーは東北大生ですが、他大学・他団体との交流もあります。幅広い支援活動をしたい方、ぜひ一緒に活動しましょう！



E-mail: koho@haru-tohoku.org URL: <http://www.harutohoku.org/> BLOG: <http://tohokugakuseifukko.blogspot.jp/>

7 東北大学地域応援サークル
ぽかぽか

代表: 奥山 拓哉(法学部2年)

岩手大学・神戸大学とも連携しながら、岩手県陸前高田市の仮設住宅でボランティア活動を行っています。一般学生を交えたボランティアツアーを行うこともありますが、仮設住宅での足湯・手芸などの活動がメインですが、地域の要望に応じて子どもの保育などの活動も行います。陸前高田市の季節ごとの行事、8月の「動く七夕」・正月の「とらまい」なども、お手伝いしながら楽しめます。月一回を目標に現地に行きますが、時間があるときに自分のペースで参加できます。



E-mail: oktk.1921.from.h.to.s@gmail.com BLOG: <http://ameblo.jp/poca-2/> TEL: 080-4043-5834

8 学生による地域支援団体 みまもり隊

代表: 中井 崇人(理学部4年)

私たちみまもり隊は、震災復興のため2011年6月に結成し、魅力たっぷりの街、東松島市を中心に農業支援等をしている団体です。



私たちは、東松島に多くの人を呼び込み、東松島を活気あふれる街にしたいと考えています。そのために他団体と連携して東松島のブランド地野菜を創るプロジェクトを立ち上げました。みんなで楽しく地野菜を創り、それを様々な場所で売り、同時に情報発信していくことで東松島の魅力を内外にアピールします。



E-mail: mimamori.311@gmail.com URL: <http://mimamori311.wix.com/mimamori> TEL: 080-6702-3430(代表)
Facebook: みまもり隊 Twitter: mimamori_tai FC2 BLOG: <http://shienmimamori.blog.fc2.com/>

9 震災復興・地域支援サークル ReRoots

学生代表: 本田 雄生(理学部2年)

ReRootsは東日本大震災後に発足したボランティア団体です。仙台市若林区の津波被災地で、「復旧から復興へ、そして地域おこしへ」をコンセプトに、農業、景観、販売、コミュニティをテーマに活動しています。被災農地の復旧作業と並行して、市民農園の運営や復興支援ショップ「りるまあと」の運営、景観再生を目的とした「ひまわりプロジェクト」などを行っており、今後も復興、地域おこしに向けて中長期的に活動していきます。



E-mail: reroots311@yahoo.co.jp URL: <http://reroots.nomaki.jp/> TEL: 022-762-8211

2 一般財団法人 学習能力開発財団

理事長: 畠山 明(担当: 穴戸)

震災で遺児・孤児になられた方への無料学習支援(マンツーマン)。弊財団の学習支援は、一人ひとりにしっかり寄り添うマンツーマンの学習支援です。受験対策という側面だけではなく、喪失体験のある子供たちとなりてしっかりと心を支える役割もあります。



ボランティアの学生さんは月に1度報告会にて、指導ノウハウやگریフケアについて専門知識を学ぶ事ができます。授業前研修として、受験情報や授業の進め方など事務局のスタッフが丁寧サポートいたしますのでご安心ください。



E-mail: info@lead.or.jp URL: <http://www.lead.or.jp> 【FB/Twitterあり】
住所: 〒980-0803 宮城県仙台市青葉区国分町2-13-21-6F TEL: 0120-001-296

3 情報ボランティア@仙台

代表: 小林 奈央(東北学院大学3年)

私たちは仙台市を中心とした被災地の情報を発信しているボランティアです。復興に向け奮起する人や団体を学生目線で取材し、ブログや仙台市が発行するかわら版で11年4月から発信しています。被災地の「今」を伝えると同時に、震災の風化を防ぐことを目的としています。メンバーは東北大、学院大を中心に15名ほどです。週1回ミーティングを行い取材先の共有や、震災についての知識を高めるための勉強会などを行っています。



E-mail: kahoku_volun16@yahoo.co.jp URL: <http://flat.kahoku.co.jp/u/volunteer16/>

4 特定非営利活動法人 チームレスキュー

代表: 小野 聡美

2011年4月28日より宮城県七ヶ浜町でのボランティア活動を開始。現場では、建物や側溝等の瓦礫やヘドロの撤去、道づくり、スポーツ振興、炊き出し等の、幅広いニーズに対応。また、災害ボランティアリーダーも任せられるようになり、これまでに延べ1,000人以上の一般ボランティアのリーダーとして、多数の現場を任せられた事例もある。2012年11月より、我々は内閣府・環境省のオブザーバーとして認定を受け、内閣府の災害検討会のメンバーとして、参加させて頂いている。



E-mail: teamrescue.center@gmail.com URL: <http://teamrescue.jimdo.com/>

学外 のボランティア団体の紹介 13団体

※掲載は五十音順です

東北大学生が活動している学外のボランティア団体を紹介します。
こちら、気になる団体があれば4月のスタートアップフェア等で詳しく話を聞いてみましょう!

1 特定非営利活動法人 アスイク

代表: 大橋 雄介



震災2週間後に避難所からスタートし、現在は、仮設住宅や経済的に困難を抱えた家庭の子どもの対象に、放課後の学習サポートと居場所づくりを仙台市内各地で行っています。大切にしているのは「子どもとの信頼関係」。子どもが元気を充電して家に帰って行くことができるような、ほっとする「学び場」を一緒に作りませんか?様々な年代のサポーターさんが日々、子どもの笑顔を生み出しています。随時見学受け付けております!



E-mail: info@asuiku.org URL: <http://asuiku.org> TEL: 022-781-5576

5 公益社団法人 チャンス・フォー・チルドレン

代表理事: 今井 悠介



●東日本大震災で被災した小学生から高校生の児童・生徒に対して塾・予備校・習い事などで利用できる学校外教育バウチャー(クーポン)を無償で提供しています。
●バウチャーを利用する児童・生徒に対し、月に一回大学生アドバイザー(ボランティア)が電話もしくは面談を通じ、学校外教育バウチャーの利用や学習・進路の相談・アドバイスを行います。



E-mail: east@cfc.or.jp URL: <http://cfc.or.jp/> TEL: 022-265-3461

6 特定非営利活動法人 Teach For Japan

代表: 上松 満義

私たちNPO法人Teach For Japan東北事業部は、主に宮城県内の被災地帯・生活保護受給世帯の小・中学生を対象にした、無償の学習支援事業「寺子屋くらぶ」を行っています。



寺子屋くらぶは毎週土曜日と日曜日に開催され、教育に対する熱意を持った優秀な学生が数多く参加し、学習遅滞を抱える子どもの学習をサポートしています。教育やボランティア活動に興味のある方は、ぜひともご参加ください!お待ちしております!



E-mail: tohoku_rec@teachforjapan.org Facebook「Teach For Japan東北事務所」: <https://www.facebook.com/TeachForJapan.tohoku?ref=hl>
住所: 〒980-0013 宮城県仙台市青葉区花京院2-1-61 第5タカノボルビル4階 405号室 TEL: 080-4307-7764

7 東北大学生協同組合

専務理事: 佐藤 和之

東北大学生協同組合では、学習支援等のボランティア活動や買い物をすることで被災地を応援する企画等を実施しています。また、食堂のメニューに被災地の食材を取り入れることで、食べて応援する「震災復興メニュー」の企画も実施しています。組合員のみならず被災地支援活動を行うことで、震災の記憶を風化させることなく、被災地のために何ができるのかを考えてもらう機会となるよう取り組んでいます。



URL: <http://www.coop.org.tohoku.ac.jp/> TEL: 022-262-8022

8 特定非営利活動法人 P@CT (パクト)

代表: 水野 朝紀

パクト(P@CT)は東日本大震災を受け、2011年7月に、地元の若者や全国から駆けつけた有志により結成された、地元発の復興支援団体です。子どもの居場所づくり活動、「みちくさルーム」の実施や、市内の子どもに対する包括的な支援、ボランティアの受け入れ窓口、「陸前高田市復興サポートステーション」の運営の他、廃校を利用した簡易宿泊所、「二又復興交流センター」の運営(市の指定管理)を行っています。



E-mail: p@ct311.org または child.p@ct311.org (子ども支援専用メールアドレス) URL: <http://pact-rt311.org> TEL: 0192-47-4977

9 特定非営利活動法人 ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパン

代表: 大谷 航介(宮城事務所)

ハビタット・フォー・ヒューマニティは、世界約80の国や地域で住居建築支援を行っている国際NGOです。北は北海道、南は九州まで、全国の25の大学キャンパスに学生支部があり、年間1,000名前後が途上国での住居建築ボランティアに参加しています。震災以降、建築とボランティアの力で東北支援を続けており、今年から東北大にも学生支部「As One」ができました。建築やボランティアに興味のある方、ぜひ一度ご参加ください!



E-mail: kotani@habitatjp.org URL: <http://www.habitatjp.org/> BLOG: <http://habitatjp.blogspot.jp/>

10 ピコせんサポーター

代表: 齋藤 まゆみ

11月に行われる、子どもの、子どもによる、子どものためのまちづくりプロジェクト、「Piccoliせんだい」。子どもたちが自分たちでまちの仕組みや景観を考え、自由な発想でまちを運営します。子どもたちに遊びの場を提供し、遊びの中で主体性を育むプロジェクトです。本番に向けての月2回ほどの子ども会議のお手伝いができる方、年間を通しての企画・運営に携わってくださる方を募集しています。興味のある方はぜひご協力ください!



E-mail: piccolisendai@gmail.com URL: <http://picosen.webcrow.jp/>
Facebook: <https://www.facebook.com/piccolisendai> 住所: 〒983-0047 仙台市宮城野区銀杏町14-15 TEL/FAX: 022-296-6056 mobile: 080-2823-0872

11 一般社団法人 復興応援団

代表: 佐野 哲史

南三陸町に訪れる人を増やす「ファンづくり事業」に取り組みます。震災後に新たな挑戦を始めた農家や漁師に出会うツアーを運営し、約1,000人を送り込んできました。ツアー参加後も継続的に応援を続けてくれる「南三陸のファン」を全国に増やし、農業・漁業で立ち上がるチャレンジャーの事業を加速させます。多賀城市では、仮設住宅に暮らす方が外に出てみたいようになる「街の情報」を情報誌でお伝えします。住民の声を対面で聞き取り、地域福祉の活動に繋げてまいります。



E-mail: info@fukkou-ouendan.com URL: <http://www.fukkou-ouendan.com/>
住所: 〒988-0423 宮城県本吉郡南三陸町歌津字枳沢83-6-205 TEL: 022-625-9897

12 宮城復興支援センター

代表: 茂木 秀樹(ボランティア担当者: 岸)

子どもの活動の一つとして子どもたちの心のケアを目的にした「国際交流イングリッシュキャンプ」がごさいます。大自然の中で、参加小学生約100名・外国人ボランティア約25名・国際交流に興味のある日本人ボランティア約10名と、1泊2日のキャンプを行います。英語と日本語を交えながらボランティア同士の国際交流ネットワークも広がります。楽しく学びのある2日間の食費・宿泊費・交通費は無料です。皆様のご参加をお待ちしております!



E-mail: volunteer@gakuwarinet.com URL: <http://www.ganbaro-miyagi.com/spring2014/jp/> TEL: 022-398-9148

13 一般社団法人 ワカツク

代表理事: 渡辺 一馬

被災地やビジネスの最前線の現場と学生をつなぎ、学生のチャレンジを応援していくのがワカツクの仕事。学生のボランティア活動を支援する日本財団学生ボランティアセンター(Gakuvo)東北を立ち上げ、宮城の学生団体と連携して学生向けの被災地バスツアーの企画や、ボランティア団体と学生をつなぐマッチングフェアなどを行っています。支援を受けたい学生やイベントやバスツアーを企画してみたい人、Gakuvo東北スタッフとして活動してみたい人はワカツクまで!



E-mail: info@wakatsuku.jp URL: <http://www.wakatsuku.jp/> いぐする仙台WEBサイト: <http://igusuru.com/>
住所: 仙台市青葉区北目町4-7 HSGビル3F TEL: 022-721-6180